

ショウファ・アミナス研究員（モルディブ）



As-salāmu ‘alaykum (Peace be upon you) 私はインド洋にあるモルディブ諸島から参りましたショウファ・アミナスと申します。モルディブでは防災のプロジェクトリーダーとして働いています。

私は、2014年から現在に至るまで、国家防災センターにおいて、2004年インド洋津波の後に始められた国家・地方レベルでの防災活動を調整する仕事をしてきました。

その前の10年間は、国家防災センターにおいて応急対応のコーディネートをおこなってきました。現在、国家防災センターでは、災害の初期対応、被害軽減、コミュニティ防災、応急対応、復興におけるプロセスは包括的なモデルに沿って実施されています。また、国際機関、支援機関等と共に、モルディブ島の脆弱性をふまえたリスクマネジメントについて継続的に検討を進めています。

モルディブでは、高潮、豪雨に伴う洪水、都市火災が、被害があまり大きくはないのですが、頻繁に発生しています。そのため私たちはここ数年、災害予防、被害軽減、救援、応急対応を主に行ってきました。被災後、状況が落ち着くまでは、緊急管理センターのすべての職員は、避難者にシェルターや必要な物資を届けます。私は被災時には、主に情報伝達、避難者のマネジメントなどの役割を担ってきました。

また、災害リスク軽減の担当として私は、地方、支援団体と共にプロジェクトを実施してきました。主に、島の防災計画ワークショップ、コミュニティ緊急対応チームのトレーニングなどのコミュニティ防災活動などを行ってきました。また学校を中心としたプログラムや活動を通して、コミュニティの災害リスクの軽減に向けた啓発・推進をおこなってきました。

更に私は、さまざまなトレーニングワークショップやトレーニングの計画、実施、情報官として、公式ホームページ、ソーシャルメディアなどの管理、現行の緊急対応、プログラムのガイドライン、標準的な作業手順書の作成など多岐にわたる業務を担ってき

ました。

ADRC に着任している期間では、主に、子供のための防災教育について学ぶと共に、防災知識の啓発・普及についてのスキルを磨いていきたいと思っております。それらの防災の知識を得ることによって、自身の能力を高めることが出来ると考えています。このプログラムに参加することで、地方、国家レベルの防災対策をより効率的なものにしていくことができると確信しています。このような貴重な機会を与えて頂いたことに心から感謝しております。最後に、今回客員研究員としての防災対策についてより深く学ぶ機会を提供して頂いた ADRC ならびに、日本政府、一緒に学ぶインド、マレーシアからの客員研究員や日本の皆様に感謝を申し上げます。